

各 位

会 社 名 株式会社やまびこ
 代表者名 代表取締役社長執行役員 永尾 慶昭
 (コード番号 6250 東証第一部)
 問合せ先 管理本部総務部長 安田 一範
 (TEL 0428-32-6111)

新中期経営計画策定に関するお知らせ

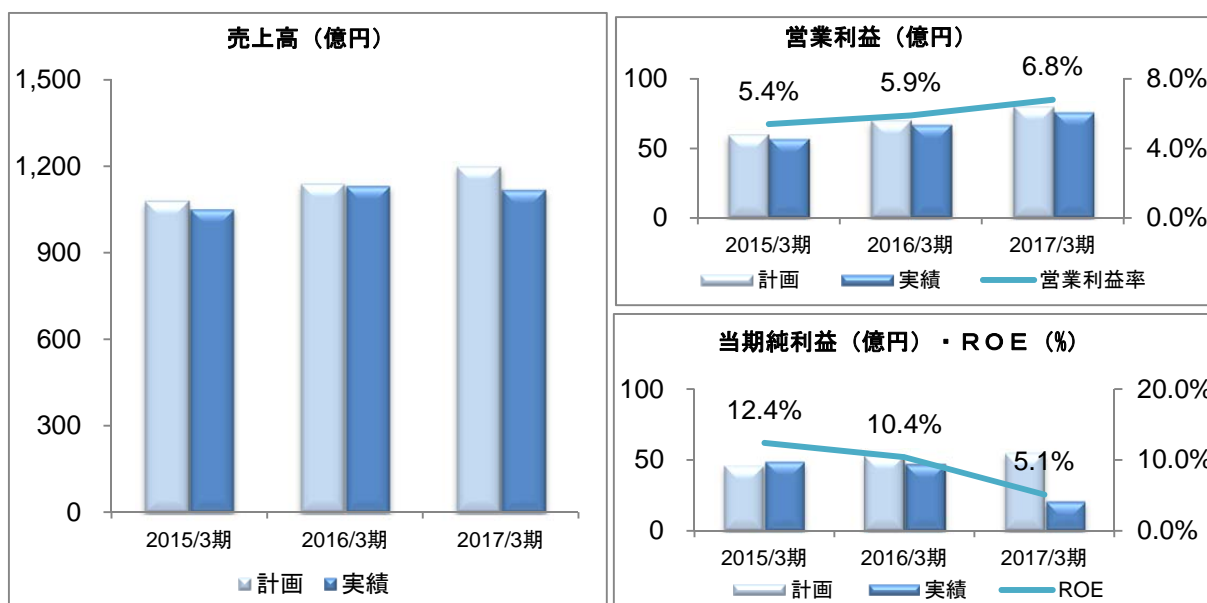
当社は、本日開催の取締役会において、2017年度から2019年度を対象期間とする新中期経営計画を策定いたしましたので、その概要について下記の通りお知らせします。

記

1. 前中期経営計画の総括

当社グループは、前中期経営計画期間（2015年3月期～2017年3月期）を「攻めの3ヶ年」と位置づけ、拡販に資するマーケティング・開発投資、収益性改善に資する設備投資を積極的に行い、主力事業分野である小型屋外作業機械事業の更なる成長および農業用管理機械事業と一般産業用機械事業の着実な拡大に取り組むとともに、より一層の経営基盤強化を目指してまいりました。

その結果、主に原油安や穀物価格の下落など、予想外の経済環境悪化の影響により、ロシア市場や北米農業用管理機械、一般産業用機械事業が落ち込んだものの、主力の小型屋外作業機械事業が北米・西欧におけるマーケティング戦略が奏功して、海外売上を大きく伸ばさせ、国内売上も販路拡大などで堅調に推移しました。損益面では、収益性向上につながる各種取り組みによって、每期着実に利益率の改善を果たしましたが、厚生年金基金の解散に伴う特別損失の計上などもあって、親会社株主に帰属する当期純利益は当初計画を大きく下回りました。



(単位：百万円)

	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績
売上高	108,000	105,251	114,000	113,348	120,000	111,945
営業利益	6,000	5,688	7,000	6,730	8,000	7,620
親会社株主に帰属する当期純利益	4,600	4,910	5,300	4,700	5,500	2,374
ROE (%)	2014年3月期実績 14.5%		⇒		2017年3月期目標 12%以上を維持	
	-	12.4	-	10.4	-	5.1
< 通期輸出為替レート > (単位：円)						
USD (\$)	100	110	100	121	100	109
EUR (€)	140	139	140	132	140	120

2. 新中期経営計画「中期経営計画2019」基本方針

当社グループが中長期的にどのような会社を目指していくべきか、より具体的なイメージを共有するために「中期経営計画2019」では、次の2つのビジョンを掲げます。

①誰からも信頼される会社であり続ける ⇒ やまびこサステナビリティ

強い経営基盤を持ち、持続的に成長することで社会の発展に貢献し、やまびこにつながる全ての人々を幸せにします。

②魅力ある会社になるために常に変革する ⇒ やまびこイノベーション&ダイバーシティ

革新的な製品を生み出し、グローバルに製造・販売・サービスを展開することで企業価値を高めるとともに、やまびこにつながる人々の多様な価値観に対応します。

また、「中期経営計画2019」を前中期経営計画期間で実行した積極投資の効果を具現化する期間とします。

3. 重点施策

上記、基本方針に掲げたビジョンの実現に向けて、以下の項目を重点施策として取り組んでまいります。

(1) 製品競争力の強化

- ①小型屋外作業機械事業における、軽量・高性能エンジン搭載製品の開発を推進するとともに、将来的な排出ガス規制強化およびバッテリー製品市場の普及などを見据えた製品ラインアップを通じて、より一層の競争力向上を図ってまいります。
- ②次世代ロボット芝刈機の導入を図り、グローバル展開を推進するとともに、ロボット開発技術を応用した新製品開発にも取り組んでまいります。

(2) 販売・サービス力の強化

- ①小型屋外作業機械事業では、主力の北米市場において新たなマーケティング戦略などを通して一層のブランド力向上およびシェア拡大を図ってまいります。欧州市場においては、2017年1月に設立した、やまびこヨーロッパの活用により主要代理店の成長戦略を実現させることで販売拡大と、サービスレベルの向上を目指してまいります。また、農業用管理機械事業ではアジアを中心に主力の防除機の海外展開を本格化させ、一般産業用機械事業では最大市場である米国市場やアジア市場での販路の開拓、拡大を継続し、海外市場への取り組みを強化してまいります。

②国内においては、2017年4月に設立した、やまびこジャパンの統合シナジー追求に加え、付加価値の高い新製品導入やサービス体制の強化などを通じて、いずれの事業においてもシェア向上に取り組めます。

(3) 製品品質向上と生産効率の改善

①より一層の製品品質向上を目指した体制・システム作りに取り組み、「絶対品質」の確立を目指します。

②前中期経営計画期間で実行した設備投資の効果を早期に実現させるとともに、製造ラインの自動化などの積極的な設備導入を推進し、生産効率の改善およびコスト低減を追求してまいります。

(4) 基盤強化および企業価値の向上

①前中期経営計画期間中に導入した新基幹システムの活用によって、在庫の最適化や業務効率向上などの効果を最大化させるとともに、労働時間の短縮、職場環境の整備などにも取り組み、労働生産性の改善につながる相乗効果を追求してまいります。

②2018年12月の創立10周年という節目を迎えるにあたり、次の10年を見据えたやまびこの目指す姿を策定し、企業理念と進むべき道をやまびこグループ全体で共有するとともに、CSR活動の推進を図ることによって社会的評価の向上を追求してまいります。また、M&A、アライアンスなどについても予断なく検討してまいります。

4. 業績計画と目標指標

(単位：百万円)

	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期
売上高	103,000	120,000	125,000
営業利益	6,300	7,800	8,800
親会社株主に帰属する当期純利益	4,400	5,500	5,700
営業利益率 (%)	2019年12月期 7%		
ROE (%)	「中期経営計画2019期間中」 10%以上		

<前提となる通期の輸出為替レート> (単位：円)

USD (\$)	110	110	110
EUR (€)	120	120	120

(注) 本計画は、現時点における事業環境に基づくものであり今後の事業環境の変化によっては、実際の業績が変動することがあります。

また、当社は2017年度より決算期を12月31日に変更予定であります。このため、2017年12月期は、2017年4月1日から2017年12月31日までの9ヶ月間となります。

5. 株主還元についての考え方

当社は、安定的に利益還元を行うことが経営上の重要課題のひとつと考え、剰余金の配当につきましては、安定配当の継続を基本とし、連結業績に応じた利益還元を加味するとともに、経営環境や財務状況、将来の事業展開に備えた内部留保の充実などを総合的に勘案して決定することを方針としております。

なお、前中期経営計画において“連結業績に応じた利益還元”として連結配当性向25%を目安としておりましたが、「中期経営計画2019」では、連結財政状態の改善を背景に「連結配当性向25%以上」に見直します。

以上